

第4回のテーマ

第4回のテーマは、脳神経領域のフィジカルアセスメントです。その中で今回は、意識障害について説明します。

脳神経

- フィジカルアセスメントは、患者さん・家族のインタビューから得られた主観的情報 + 看護師自身の手で調べたフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）の結果である客観的情報を統合し、患者さんの身体状況に対する判断を行います。
- 意識障害を有する場合には、主観的情報を得ることが困難なことが多いです。そのため、客観的情報からアセスメントしていきます。
- 意識の観察では、普段と様子が違うという変化に気づくことが重要です。日ごろから、会話や仕草などの変化に注意し観察しましょう。
- 意識障害や麻痺により活動の低下は褥瘡や呼吸器合併症のリスクが高くなります。二次合併症や機能回復に関するフィジカルアセスメントも大切です。
- 意識は生命を左右する重要なサインの一つです。軽微な意識の変化も見逃すことがないように、意識状態を正確に観察・評価することが大切です。
- 意識障害の有無や重症度を評価するため、JCS(図1)やGCS(図2)などのスケール(評価尺度)を活用します。評価スケールを用いることで客観的かつ経時的な評価が可能となります。しかし、評価者自身がスケールの意味を正しく理解し、活用しなければ評価できていないとも言えません。評価内容をまずは理解し、スタッフ同士でトレーニングを行いましょう。



図引用：医療情報科学研究所：フィジカルアセスメントがみえる第1版，メディックメディア，p218-219，2017

意識障害を引き起こす原因は多数あります。そのため、意識レベルの評価だけを行うのではなく、意識障害の原因は何なのか全身のフィジカルアセスメントを行う必要があります。

Point

- ① 軽微な意識の変化も見逃すことがないように、意識状態を正確に観察・評価することが大切です
- ② 評価スケールを用いることで客観的かつ経時的な評価が可能となる
- ③ 意識障害の原因は何なのか全身のフィジカルアセスメントを行うことが大切です

文献 渡辺大：脳神経外科病棟で必須のフィジカル意識障害，36(3),2020.
医療情報科学研究所：フィジカルアセスメントがみえる第1版，メディックメディア，2017
塚本容子他：ナースが症状をアセスメントする！症状別アセスメント，メジカルフレンド社，2016

次回からは事例等をおとしてのフィジカルアセスメントを掲載予定です。